

浜松観光ボランティアガイドの会

2022年度「浜松観光ボランティアガイド養成講座」(後半)

2022年度「はままつ案内人新人養成講座」の後半の3回が開催されました。

【第4回・2月6日(月)】 前回の講座で受講者から出た質問への回答をした後、家康の散歩道について学びました。前半は桶田忠正さん(東ブロック)による神社編です。「散歩道ガイドは当会の重要な活動で、戦災のため旧跡は地味だが、家康の軌跡をしのび、魅力をしっかり勉強してガイド活動に活かしてほしい」と前置きされて講義を始めました。戦前国宝だった五社神社・諏訪神社が「昭和の大改修」を終えた5カ月後に焼失したという皮肉な出来事などが印象に残りました。後半は杉本忠久さん(南ブロック)による寺院編です。普済寺・西来院・宗源院の三寺の見どころや「ここでは最初に必ず本堂でお参りしてから墓苑へ回ること」など、ユー



家康の散歩道・神社編の説明

モアを交えて話されました。

【第5回・2月13日(月)】 雨天の中、遠鉄アシストの方々を含め「浜松城 歩いて知る広さ」と銘打って、市役所南エントランスから浜松城周辺の現地研修が行われました。9時45分から7～8名が5班に分かれ歩き始めました。鎧掛けの松の案内板前では、内容(三方ヶ原合戦後にこの松に家康が鎧を掛けた)をそのまま「史実と伝えない」ことや、大手門ビル前案内板からは、通りを隔てた聖隷事業団本部ビルの南側から堀になっているのがよくわかることなど、ガイド活動に活かせるポイントを教えていただきました。また今回は「横町通り」や「鉄砲長屋跡」など新しい見学個所も加わりました。11時45分までに全ての班が健康チェックを終え無事解散しました。この日の参加者は25期22名、24期8名、遠鉄アシスト7名、ガイドの会スタッフ14名でした。



雨の中の横町通りを歩く

【第6回・2月20日(月)】 まず、実際の活動に向けて、ユニフォームを試着しサイズを決めてから、前半「浜松あれこれ」の講義が岩城豊さん(南ブロック)によってすすめられました。スライドでは数多くの浜松の1番を見やすいレイアウトと楽しいお話で紹介され、受講者の皆さんの頭にも印象深く残ったと思われます。浜松の歴史と関わりのある主な人物の冊子も、カラーで要領よくまとまっていて使いやすそうでした。

後半はいよいよ配属ブロックに分かれて、各ブロック長から細かい説明を受けました。当番日の決まり方やブロック会の参加など、不安なことがたくさんありそうな新人の皆さんでしたが、先輩会員からいろいろアドバイスを受け、少しずつ自分のガイド活動を現実的にイメージされているようでした。これから皆さん仲良くやっていきましょうね。

広報部 前原福子(西ブロック)



鈴木会長と新人研修を終えた皆さん

富士山の日記念ウオーク『家康公の出世街道』を歩く！



富士見櫓にて（残念ながら富士山は見えず）

り口前を通過し、引間城へ。日限地蔵を覗いた後は、下垂口のクランクに納得し、松下之綱屋敷跡を確認して、秀忠公誕生井戸へ。遠江分器稲荷神社と本多忠勝屋敷跡を見た後は、いよいよ街中へ。元遠州銀行本店（現静岡銀行浜松営業部）の建物に感心し、鍛冶町通りのヤマハや春華堂を見て、浜松の産業に思いを馳せ、ビルの合間にひっそりとある黒田稲荷を覗いて、肴町通りに残る数々の浜松地域遺産の存在に驚いた後は、五社前通りの坂を上がって五社神社・諏訪神社へ。鳥居横の河津桜がきれいに咲いていて、写真を撮る人も多かったです。少しトイレ休憩をとって、心造寺、蓮華寺の説明を受け、新撰組隊士中島登（のぼり）住居跡を見た後は、出丸の日本点字創始者石川倉次氏の記念碑の説明を聞き、最後は鎧掛けの松を見てコースを終了、約2時間半のウオーキングでした。

これまでの富士山の日記念ウオークの中でも、歩く距離が長く、内容も盛りだくさんで、お客様が疲れてしまうことを心配していました。ですが、途中離脱される方もなく、皆さん最後まで楽しんでいらしたようでした。

お客様からいろいろな感想をいただきました。大河ドラマが始まって、興味を持つようになって参加された方、普段車で移動する生活をしているので、浜松の街中を歩いたことがなかったという方、肴町という名前を聞いたことがあっても初めて来たという方などなど、いつもは通り過ぎてしまう街中をじっくり見ることができて、浜松の魅力を再発見されたようです。また、一人ではこんな距離を歩くことができないけれど、ガイドの話を聞きながら、みんなで楽しく歩いたから最後まで歩ききることができた、と喜ばれていた方もいらっしゃいました。



都はるみの奉納絵馬を覗き込む様子

天皇誕生日であり、富士山の日でもある2月23日（木）祝日、2年ぶりに富士山の日記念ウオークが実施されました。募集要項では9時出発になっていましたが、8時半前から受付を開始、8時42分には第1グループが出発しました。参加者はお子様も含めて総勢85名となり、ケーブルテレビの取材も入るなど、大盛況のイベントとなりました。曇り空で、それほど冷え込みも厳しくなく、途中雨がバラつくこともありましたが、最適なウオーキング日和となりました。

浜松城公園中央芝生広場を出発すると、急峻な坂道を上がって富士見櫓からスタートです。急な階段からのスタートに今後の展開を心配されたお客様も多く、「今日一番の難所」という説明に安心されていました。

さて、富士見櫓の次は、鉄門跡、大河ドラマ館の入り口前を通過し、引間城へ。日限地蔵を覗いた後は、下垂口のクランクに納得し、松下之綱屋敷跡を確認して、秀忠公誕生井戸へ。遠江分器稲荷神社と本多忠勝屋敷跡を見た後は、いよいよ街中へ。元遠州銀行本店（現静岡銀行浜松営業部）の建物に感心し、鍛冶町通りのヤマハや春華堂を見て、浜松の産業に思いを馳せ、ビルの合間にひっそりとある黒田稲荷を覗いて、肴町通りに残る数々の浜松地域遺産の存在に驚いた後は、五社前通りの坂を上がって五社神社・諏訪神社へ。鳥居横の河津桜がきれいに咲いていて、写真を撮る人も多かったです。少しトイレ休憩をとって、心造寺、蓮華寺の説明を受け、新撰組隊士中島登（のぼり）住居跡を見た後は、出丸の日本点字創始者石川倉次氏の記念碑の説明を聞き、最後は鎧掛けの松を見てコースを終了、約2時間半のウオーキングでした。



本多忠勝屋敷跡に関心が集まる

大河ドラマが始まって、興味を持つようになって参加された方、普段車で移動する生活をしているので、浜松の街中を歩いたことがなかったという方、肴町という名前を聞いたことがあっても初めて来たという方などなど、いつもは通り過ぎてしまう街中をじっくり見ることができて、浜松の魅力を再発見されたようです。また、一人ではこんな距離を歩くことができないけれど、ガイドの話を聞きながら、みんなで楽しく歩いたから最後まで歩ききることができた、と喜ばれていた方もいらっしゃいました。

今回は、『家康公の出世街道』を歩く！がテーマのコースでしたが、街中の魅力再発見のコースにもなっていました。これをきっかけに街中に遊びに来られる方が増えるとよいです。

大河ドラマ「どうする家康」ではそろそろ浜松が舞台になるはずですね。いよいよ3月18日から大河ドラマ館がグランドオープン！浜松の街中もさらに賑わっていくといいですね。

広報部 松沼素子（南ブロック）

東ブロックミニ研修 浜松科学館「みらい〜ら」見学



上野さんから説明を受ける参加者

1月26日(木)13時から10年に一度の大寒波という厳しい寒さの中、東ブロックのミニ研修が浜松市中区北寺島町の浜松科学館「みらい〜ら」にて12名の参加者で行われました。

阿形東ブロック長のあいさつに続き、浜松科学館のチーフエドューケーターの上野さんから、2019年7月に体感型展示へと全面リニューアルオープンしたことを伺いました。1階のライブラリー&カフェの無料で入場できるコーナーでは、約2000冊の本と手塚治虫の全集が備えられているコーナーもあり、是非気軽に利用して頂きたいとのことでした。次に助手の水谷さんと2名で、館内の5つの「自然」「力」「音」「宇宙」「光」ゾーンを順次案内していただきました。

最初の自然ゾーンでは、浜松の歴史と文化が学べるよう浜松市の地形図模型を見ながら、浜松市の産業発展には浜松市の地形に大きな影響力があることの説明を受け、参加者は皆熱心に地形図の凹凸に触れていました。光ゾーンでは、科学館の名誉会長であるノーベル物理学賞を受賞された天野浩さんの、白色光源を可能にした青色発光ダイオードを発見されたコーナーも設けられていました。青色の光に黄色のフィルムを通すことで白色に変わる理論からLED電球が開発されたんだそうです。すごいですね。

展示物の見学後、14時30分から2022年3月にリニューアルされた約1億個の星が映し出される静岡県最大のプラネタリウムドーム内に入り、その日の夜から翌日の朝までの満天の星空を眺めながら生解説を聞き、約45分間の夜空探索の旅を体験しました。あまりの心地よさで眠ってしまった人もいましたが、それはそれで良かったですね。

最後に1階の工作室で質疑応答があり、参加者から多くの質問が出され、楽しい一日のミニ研修が終わりました。科学だけでなく、浜松の歴史と文化が学べた今回の研修を、今後の浜松市の観光ガイド活動に生かしていきたいと思えます。



浜松市の地形図に手を触れる参加者

広報部 杉山太一（東ブロック）

令和4年度観光関係優良従業員表彰式

2月8日(水)グランドホテル浜松で浜松・浜名湖ツーリズムビューロー主催の令和4年度観光関係優良従業員表彰式があり、7団体20名の方々が表彰されました。当会から池上日出子さん（南ブロック）、池下晶也さん（中ブロック）、磯部美保子さん（西ブロック）、竹山和子さん（東ブロック）、小野貞男さん（中ブロック）の5名が表彰されました。5名の方々は2010年に12期生として入会し、今日まで会の運営及び専門部等の観光関係活動に貢献したことが評価されました。磯部さんは受賞の感想を「これまで頑張った甲斐がありました。今後もガイド活動を続けていきたいと思えます」と語っていました。

表彰式に続いて会員の集いがあり、浜松市文化財課・専門監の太田好治氏による「家康公ゆかりの浜松の歴史遺産」の講演がありました。今後は浜松時代に産まれた家康公の5人の子供にスポットを当てることも浜松の観光資産として価値があるとの持論を語られました。特に二代將軍徳川秀忠に関しては、生誕地である浜松時代の検証を行うことが必要であろうとのことでした。その後、懇親会でこれまでの労をねぎらいました。



左より池下さん、磯部さん、竹山さん、池上さん、小野さん

西ブロック 春日康治

会員の交流広場

御前崎まで飛んだ初凧



初子凧揚げで氣勢を上げる

御前崎の松林にある」という知らせです。凧愛好家の相良の人が、浜松まつりの凧ではないかと電話してくれたのです。私は御前崎にすぐにでも飛んでいきたい気持ちでしたが、その夜の屋台の準備がありました。その為、役員 2 人がトラックを飛ばして、御前崎に向かいます。携帯電話もない時代、原子力発電所の東側防風林という情報だけでは位置がわからず苦労したようですが、なんとか追分の凧は見つかりました。うれしいことに、6 帖の初凧は損傷少なくきれいな状態でした。

さて、それからです。初子さんの祝いの初練りに間に合うように、施主さんのお宅に初凧を届けなければなりません。果たして、御前崎からのトラックがいつ帰ってくるか気が気ではありませんでした。そんな状況でしたが、トラックはなんとか無事に浜松に戻り、幸にも初練り前に初凧を届けることができました。初凧を背景に初子さんとそのご家族の喜ぶ瞬間を見ることができ、凧に関わる者として喜びを感じました。

これからも体力の続く限り、浜松まつりに参加したいものです。

注) 先回り…落下した凧の回収担当。たとえ骨だけになっても回収。マスコミにも取材され、この初凧は一時期まつり会館に展示されました。

凧揚げ合戦で凧糸の切れることはよくあることで、かつて有玉の凧が 220 km 離れた千葉県白浜町まで飛んでいったのは、平成 6 年 5 月のことです。この出来事から、少しあとの私の経験を紹介します。

平成 11 年 (1999 年) 5 月 5 日凧揚げ会場付近で、私は追分の先回り役として合戦の行方を追っていました。しかし、追分の凧は糸が切れて落下していきます。無念ですが、トランシーバーで「海へ落ちました。回収不能です」と伝えました。その凧は初凧でしたので、先回りとしてはなんとか回収したかったのですが、どうにもなりません。

ところが、その日役目を終え、足取り重く町内の会所に帰ると驚く情報が私を待っていました。「追分の凧が、



糸切り合戦の様子

系切り合戦の様子

西ブロック 山田利夫

2月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

ドラマ館開催期間中は団体ガイド活動を中止しています。

《浜松まつり会館》

団体ガイド活動はありません

《犀ヶ崖資料館》

1 日 水	浜松市立曳馬中学校	20 名
18 日 土	掛川市民学士会	26 名
19 日 日	関西読売旅行	27 名
21 日 火	雄踏パーク友愛会	44 名

はままつ案内人会報 248号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中区元城町 100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地